

2.D.3.- 漁網防汚剤の使用（Use of Fishing Net Antifouling Agents）

1. 排出・吸収源の概要

1.1 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

養殖場で用いられる網や定置網に塗布されている漁網防汚剤を希釈するために溶剤が使用されている。網を薬品に漬けた後、溶剤を蒸発させてから網を使用するが、その際に溶剤が大気中に排出される。

1.2 排出・吸収トレンド及びその要因

漁網防汚剤からの NMVOC 排出量は、希釈用剤の使用増加により、1998 年度以降増加傾向となっていたが、2016 年度以降は緩やかな減少傾向となっている。

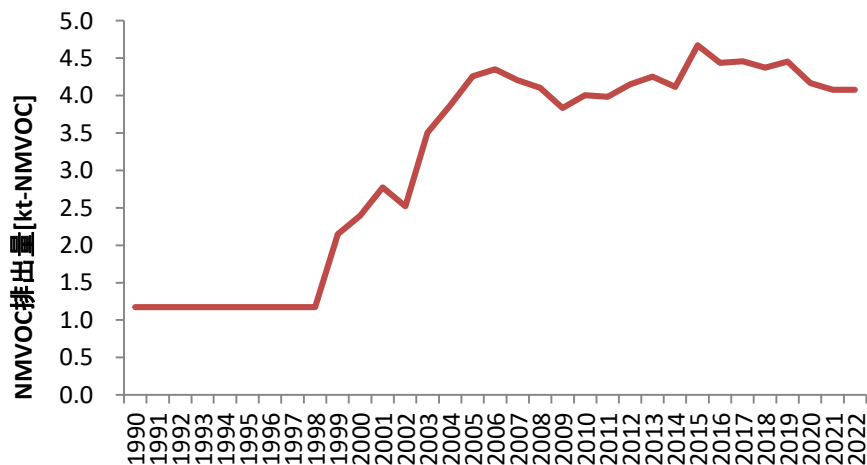


図1 「2.D.3. 漁網防汚剤の使用」からの NMVOC 排出量の推移

2. 排出・吸収量算定方法

2.1 排出・吸収量算定式

PRTR 届出外排出量の「漁網防汚剤に係る排出量」における「海面養殖等に係る漁網防汚剤の全国使用量（水産庁調べ）」のうち、キシレンの全国使用量（海面養殖・定置網）を排出量として計上する。

2.2 排出係数

活動量をそのまま排出量とするため、排出係数は設定していない。

2.3 活動量

PRTR 届出外排出量及び、水産庁提供データを基に以下のとおり設定した。

表 1 漁網防汚剤の使用に係る活動量の設定方法

年度	活動量の設定方法
1990～1997 年度	漁網防汚剤に係るキシレン使用量が存在しないため、1998 年度の海面養殖及び定置網における漁網防汚剤に係るキシレン使用量を使用する。
1998～2001 年度	水産庁提供データを使用。
2002 年度～	PRTR 届出外排出量の「漁網防汚剤に係る排出量」における水産庁調べによる「海面養殖等に係る漁網防汚剤の全国使用量」のうち、キシレンの全国使用量（海面養殖・定置網）を使用。

表 2 漁網防汚剤の使用に係るキシレン使用量の推移 [kt]

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
キシレン使用量	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	2.15
	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
キシレン使用量	2.40	2.77	2.52	3.50	3.87	4.26	4.35	4.21	4.11	3.84
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
キシレン使用量	4.01	3.99	4.15	4.26	4.12	4.67	4.44	4.46	4.37	4.46
	2020	2021	2022							
キシレン使用量	4.17	4.08	4.08							

（出典）1998～2001 年度：水産庁提供データ

2002 年度～：海面養殖等に係る漁網防汚剤の全国使用量（水産庁調べ）

3. 算定方法の時系列変更・改善経緯

表 3 初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	初期割当量報告書 (2006 年提出)	2019 年提出
排出・吸収量 算定式	未計上	新規に排出量を計上。
排出係数	未計上	—
活動量	未計上	—

（1）初期割当量報告書における算定方法

漁網防汚剤の使用は 2019 年提出インベントリから新たに追加計上された排出源であり、初期割当量報告書では算定対象とはしていなかった。

(2) 2019 年提出インベントリにおける算定方法

平成 30 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会において検討対象排出源となり、2019 年提出インベントリから新たに追加計上された（現行の算定方法と同様。）。